



中ノ沢こけしの魅力を発信

中ノ沢こけし祭り

中ノ沢こけしの魅力を発信するイベント「中ノ沢こけし祭り」は10月17日、中ノ沢体育館で開かれました。「たこ坊主」の愛称で知られる中ノ沢こけしが来年で誕生100周年を迎えることから、多くの人に中ノ沢こけしの魅力に触れてもらおうと町内の有志がつくる中ノ沢こけしプロジェクト実行委員会が前年祭として主催しました。

会場では、「たこ坊主」の生みの親である岩本善吉の貴重な作品が紹介されたほか、現在制作活動を行っている工人の作品など約100点が展示されました。また、絵付け体験コーナーや即売会が行われ、販売コーナーでは、県内外から訪れた大勢のこけしファンが買い求めていました。

各家庭に眠っている中ノ沢こけしの寄付を募り、エピソードとともに紹介する「発掘プロジェクト」を企画したところ、数多くの寄付が寄せられ、先着50人に地元菓子店の菓子が贈られました。

来年は、生誕100年の節目として、100周年記念祭が開かれる予定です。



実行委員長
氏家 利康さん



たこ坊主会会長
柿崎 文雄さん

内容を充実させていく

初開催のため、どのくらいの来場があるか予想できない状況でした。即売会では準備していた約300本のこけしが即売に近い状況でした。一方で、いくつかの課題も見えてきました。来年の100周年記念祭では、開催規模や内容を充実させてさらににぎやかなイベントにしたいです。

来年への励みに

大勢の人に訪れていただき、うれしく思いますし、来年の開催に向けて励みになりました。これまで土湯系の亜流とされてきた中ノ沢のこけしは、2018年に「中ノ沢系」として独立呼称が認められました。「たこ坊主」の魅力をこれからも多くの皆さんに伝えていきたいです。



オンラインで交流する吾妻中の生徒ら

Pick Up 今月の話題

吾妻中×ウガンダ生徒 オンラインで交流

吾妻中学校とウガンダのセントメアリーズカレッジキスビ校の生徒によるオンライン交流会は10月15日に開かれ、吾妻中学校の全校生徒約30人が参加しました。第3回野口英世アフリカ賞受賞者で、本県の国際交流特別親善大使を務めるフランシス・ジャーバス・オマスワ博士の提案を受けて、野口英世博士の出身地である本町とオマスワ博士の母校であるウガンダのキスビ校の生徒による交流会が企画されました。

キスビ校は、13〜19歳の生徒140人以上が学ぶ私立の男子校で、ウガンダを代表する名門校です。現地では新型コロナウイルスの影響によるロックダウンが行われているため、同校の生徒22人が寮の各部屋からオンラインで参加しました。

両校の生徒は、学校での生活や学校施設などを紹介。吾妻中学校の生徒は、普段の授業や校舎の清掃、部活動の様子などを動画を交えながら紹介しました。また、それぞれの地域に関するクイズや質問コーナーなどを通じて互いに交流を深めました。

吾妻中学校2年生で生徒会長の後藤優斗さんは「文化の違いやウガンダの学校生活の様子を知ることができて楽しかったです」と感想を話しました。

まちの応援マガジン いなわしろ

広報 猪苗代

Nov.2021
11
No.733

Contents — 【目次】

- 02 Pick Up
- 03 中ノ沢こけし祭り
- 04 令和3年度上半期財政状況
- 06 まちのわだい
- 08 ホットニュース／地域おこし協力隊通信
- 09 スクールトピックス
- 10 令和4年度児童・園児募集
- 12 いなわしろタウンページ
- 16 暮らしの情報広場
- 18 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー

今月の表紙



【撮影日】 10月19日
【撮影場所】 さくらこども園

さくらこども園では10月19日、同園の畑で栽培していたサツマイモの収穫を行いました。大きなサツマイモを収穫したさくら組の（左から）五十嵐桜良ちゃんと遠藤志織ちゃんです。